

---

# 無題

伊部瀬 圭

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無題

### 【Nコード】

N9568P

### 【作者名】

伊部瀬 圭

### 【あらすじ】

これは、冷戦が終わらない世界で生きる、「アビリティーケース」と呼ばれる特殊な、だけどいたって平凡な少年・少女達の物語

―月―日―曜日

―月―日―曜日

宇宙。それが、この空間で意識を取り戻した時に、最初に抱いたイメージだった。しかも、宇宙の中でも最も深い所、つまり宇宙の果てが思い浮かんだ。

俺が今いる空間がどんな空間なのかをわかりやすく説明するとするならば、失明してしまった人の世界。

瞼を開けても閉じてもただ闇が広がっているだけ。ここはそんな空間だった。

幸い、俺はまだ失明したことはないため、これは推測にすぎないけど。

それにしても、俺はどうしてこんなところにいて、どうやってここに来たんだろうか？

考えれば考えるほど、ここにいる意味がわからなくなってくる。でも、なにか大切な用事があったから、ここに来ている気もするのだが……なんだったわけ？

俺はしばらく、自問自答を繰り返していたが、なんの答えも見つからなかった。

わかるわけがないか、忘れてるんだから。

そう思い、無駄な思考をやめた。すると、まるでそれを待っていたのではないかと勘ぐぐってしまいそうなタイミングで

「暁平」

と、だれかに、名前を呼ばれた。

その声は温かく、耳に心地よい声だった。

「誰だ？」

とりあえず、名前を聞いてみた。

しかし、その問いの返答はなく、逆に俺がなにかを問われたが、うまく聞き取れなかった。そして、その問いの直後、漆黒の空間は、ゲレンデのような、一面真っ白い空間に変わった――。

―月―日 ―曜日（後書き）

はじめまして、伊部瀬 圭です。

最後までお読みいただきありがとうございます。

今回はいわゆるプロローグです。

次回から本編に入ります。ですので、次回からも読んで下さるとうれしいです。

なお自分は、まだまだ未熟者ですがプロ作家志望です。なので辛口コメント、また、その改善方法をお願いします。おもしろい！等の感想も大歓迎です。できればどこがどうおもしろいかも書いていただけるとうれしいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9568p/>

---

無題

2011年1月8日20時05分発行